

# 日中循環型都市協力事業(青島との協力)

<趣旨> 北九州エコタウン事業での経験を活用

経済産業省と国家発展改革委員会の合意により、日本の自治体が有するエコタウン建設・運営のノウハウを活用して、中国における循環型都市の取組に対する協力を実施。今年度、先ずは北九州市と青島市で実施。

## <協力内容>

1 対象都市：青島市

2 協力内容：

### FS調査

- ・ 青島市における循環型都市計画の策定支援
- ・ 家電などリサイクル分野等における技術協力可能性についての検討
- ・ 人材育成
- ・ 青島市の行政・企業関係者の訪日研修を実施



H19年9月27日、北京で開催された「第2回日中省エネルギー・環境総合フォーラム」において、北九州市・青島市両副市長が調印。

# 北九州市が目指す国際資源循環拠点のイメージ



# 光化学スモッグは現実の脅威

西日本新聞 2007年(平成19年)5月28日 月曜日

## 北九州また光化学スモッグ

### 85小学校、運動会中止

注意報発令 今年4回目 362人、目など異常

北九州市は二十日午前、大気汚染防止法に基づく光化学スモッグ注意報を市内全七区に発令した。市内では小学校の運動会のヒケクダったが、予定していた八十五校が、児童の健康への影響を考慮して中止した。このうち、児童二百九十四人をはじめ保護者、職員ら三十一校の計三百六十八人が目などの異常を訴えた。熊本、大分、長崎各県でも一部地域に注意報が発令された。

北九州市教委による、教委は「光化学スモッグと、運動会中止後、児で運動会が中止されたの八幡西区の大気観測局で、最初に体調を訴えた」とは初めてではないかと、午前八時、スモッグの原因「目がかゆい」などと訴。十九、三十日など振り回りの大気中濃度が、同日に比べて注意報が出た。九州では五月八日と九日、同日に続けて注意報が出た。小倉北、小倉南、門司の三区の観測局でも同時に二時十五分に注意報は解除された。九州ではほかに注意報が出たのは、長崎県の佐世保市と五島市、熊本県の日田市など。各地で運動会や屋外イベントが予定されていたが、中止や健康被害の報告はないという。いずれも夕方までに解除された。

## 北九州に光化学スモッグ 10年ぶりに注意報発令

北九州市は二十六日、午後一時までの一時間平均値で、大気汚染防止法で定める基準値(0・二二〇ppm)を超える0・二二二ppmを観測した。

光化学オキシダントは光化学スモッグの原因物質で、車の排ガスや工場のはい煙に含まれる窒素酸化物などと紫外線が反応してできる。日射が強く風が弱いなどの気象条件で発生しやすいが、市は「今回の原因は分から

注意報の発令で、市は大規模工場を持つ市内二十六社に、ばい煙排出量を通常操業時に比べ20%程度削減するよう要請。また、学校などには屋外に出ることを控えるよう注意を呼び掛けた。部活動を中止にした中学校もあった。被害報告はないが「外出して大丈夫か」など市への問い合わせが数十件あったという。

西日本新聞(朝)平成19年4月27日

西日本新聞(朝)平成19年5月28日

年月日	注意報発令地域
平成19年4月26日	若松区、八幡西区
5月 8日	市内全域
5月 9日	若松区、八幡西区、八幡東区、小倉南区
5月27日	市内全域

# 北九州市における国際環境ビジネス展開 の可能性と限界

## ビジネスの範囲は？

- ・大規模な設備プラント納入は困難
- ・小規模プラント、環境分析、コンサルタント業務はある程度可能
- ・設備運転、メンテナンス業務も可能

## 人材育成ビジネスができないか？

- ・地元の「暗黙知」の「形式知化」が必要
- ・行政、大学、企業に分散して存在する経験情報のデータベース化が急務

## 現地ニーズは？

- ・現地日系企業の日本コンサルへのニーズは高い(安心感)
- ・地方政府同士の信頼感は、中小民間ビジネス展開にプラス

## 熟度は？

- ・本格ビジネスの成立にはもう少し時間

# アジアとの環境協力と自治体等の活用

## 地方自治体の連携

- ・各自治体は、独自のローカル外交チャンネル有り
- ・しかし、各々バラバラ。北九州市(公害対策、循環産業)、福岡市(福岡方式)でさえ連携がない。非効率。

国内自治体連携、情報共有の体制づくり必要  
自治体も意識改革必要

(ex.水俣を加えた「九州(バーチャル)環境協力センター」)

## 環境ODA政策の現場に自治体職員を

- ・途上国の廃棄物問題はきわめて現場実践的  
(ex.ネパール・カトマンズ)

## 省の壁を越えた国際協力機関の更なるネットワークを

- ・KITA(北九州), ILEC(滋賀), ICETT(四日市), GEC(大阪), NPEC(富山), EMECS(兵庫), IGES(藤沢)

# 日本の環境首都コンテスト 第1位 (07年3月)

☑ **総合第1位** (1,020点満点中767点。第2位水俣市は695点)

☑ **7部門で1位** (15部門中)

住民とともにチェックする仕組み・情報公開、自治体との交流  
職員の資質・能力の向上、  
環境・まちづくり学習  
交通政策、ごみの減量化  
地球温暖化防止

・エネルギー政策

☑ **先進事例特別表彰**

- ・環境首都に取り組むシステム
- ・多様な自然環境保全、  
回復の取り組み
- ・アジアの地域社会と環境改善

【評価ポイント】

市民協働での取り組み、  
全分野での総合的取り組み、予算配分など

